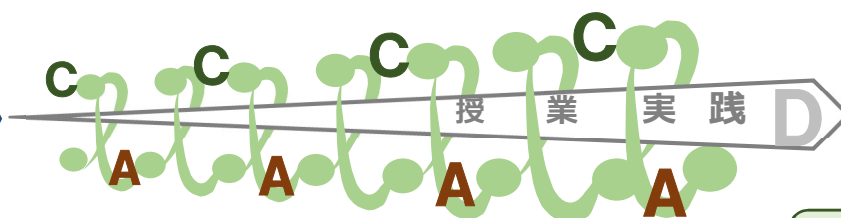


P 指導計画

終末に
「何ができるようになるか」



資質・能力が育まれ
学校の教育目標が
具現される。

C「主体的・対話的で深い学び」の視点

生徒の
つぶやきや
様相から Check !



「こんな風に話してみたい！」
「どう書いたら伝わるかな？」
「なんでこんな表現があるの？」

Check 1

- ・単元や1単位時間の導入時に学ぶ必然を感じていたか。

「この話し方・書き方は～で使うとうまく伝わりそうだ。」
「～、だからこの表現なんだ！」

Check 6

- ・他教科や領域、日常につながる喜びや可能性を感じているか。

「今までに学んだことをまとめて考えてみると…」

Check 5

- ・既習内容と結び付けてまとめたり誰の発言で深まったかを明らかにしたりしてまとめられているか。

「よし！～すればできそうだ。」
「自分たちの力で解決し切るぞ。」

Check 2

- ・ゴールを想像し見通しをもつことで、解決する道筋や意欲がもてたか。

「〇〇さんとの意見と比較すると～」
「それは～ということですか？」

Check 3

- ・仲間の考えを基に、自分の考えを明確にしたり確認したり修正したりしているか。

「△△と□□という表現をつなげてみると～が読めませんか。」
「一度話してみるのでも聞いてもらえますか。」

Check 4

- ・新たな視点を投入して深めているか。
- ・自分の考えを再考するなど、より確かな考えになっているか。

A 授業改善のポイント

☞(Check 1) 課題に必然を感じるためには

- ・日常生活などから話題やテーマを取り上げ、育てたい資質・能力(指導事項)を明確にした言語活動を設定し、生徒の興味・関心や知的好奇心を喚起することが大切です。

☞(Check 2) 単元・1単位時間の見通しをつかむためには

- ・単元の出口をイメージできるように、視覚資料や音声資料など前年度に取り組んだ資料を提示したり教師がモデルを示したりするなど具体的に想起できる物を準備しましょう。
- ・読むこと領域では「どのような視点」で読むのか、追究する視点を明らかにすることが大切です。

☞(Check 3) 仲間の考えを基に、自分の考えを明確にしたり修正したりするためには

- ・自分の考えと仲間の考えを比較して考えたり自分の考えに付け足して考えたりして広げる場を設定しましょう。
- ・対話した後に自分の考えについて確認したり修正したりする場を設定することが大切です。

☞(Check 4) 自分の考えを再考するなど、より確かな考えにするためには

- ・仲間の考えを比較・検討したり考えをより確かなものにするために「本当にそうなのか」といった問いかけをしたりすることで深く思考することができます。
- ・言葉による見方・考え方を働かせ、出てきた考えが教材や仲間のどの言葉の意味、働き、使い方に着目しているのかを明らかにすることが大切です。

- ・それぞれの単位時間で「本時のねらいを振り返る場面」と、「学習を振り返る場面」を設定することが大切です。
- ・なぜ理解できたのか、考えが変わったのかを自覚させることは、「どのような考え方で思考していけばよいのか」といったことがわかり、さらに学びたいという意欲をもつことができます。

☞(Check 5) 既習内容と結び付けて考えるためには

- ・課題解決に生かせる既習内容を吟味し、それと結び付けて考える学習を設定しましょう。
- ・自分のノートやプリントが、常に使える状態にしておくなど、既習内容が活用できたりメモを取れたりするようにしておくことが大切です。

☞(Check 6) ※飛騨地区の重点はココ！終末に実感を。

- ・学ぶ喜びや日常につながる可能性を感じるためには
- ・学んだ内容が、実際にその後の他教科、領域の学習に結び付くことが肝要です。
- ・日常生活や社会生活で使える実感をもたせるために、新聞に投書したり保護者に書いたりして「書いてよかった」という実感をもたせましょう。
- ・文学的文章、説明的文章のそれぞれの読解の仕方を明確に学び、同じ作者の文章や同じテーマの文章を「読んでみたい」と思わせるようにしましょう。

ここに示したものは、あくまでも一例です。周りの仲間の実践や、学習指導要領解説編なども参考にして授業改善を図りましょう。

